自分の短歌の鑑賞文を書いてみよう

教材：「短歌に親しむ（書く）」（光村図書）

**「短歌に親しむ」「短歌を味わう」で短歌（定型詩）について学びました。
書写の「行書」「行書に調和する仮名」の力を使い、自分の作った短歌を
短冊に書いたら、その短歌の鑑賞文をはがき新聞に書いてみましょう。
（短歌の短冊に関しては、このはがき新聞の作成の時間には含まれません）**

指導のねらい

日本に長い間受け継がれてきた定型詩「短歌」の内容の読み取りや背景を学習したことで深まった読みを経験している。自分で作った作品を主観的な思い（背景）と批判的感想とを合わせて鑑賞文を書かせる。

評価の例

目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。（B(1) ア）

A‥‥前半の内容に、作者の思いを書き込んでいる。
　　後半に、客観的に自分の作品を批判的にみた感想を書いている。

B‥‥前半は、作者（自分）がどのようか過程でこの作品を作ったのか、どんな思いだったのかを書く。後半に作品の感想を書いている。

C‥‥感想と、説明しか書けていない。

※「主体的に学習に取り組む態度」
　短歌に合う挿絵をカラーで書き、イメージをさらに伝えやすくしている。

時間配分（目安）

①導入（課題の説明）　‥‥‥5分

②はがき新聞の作り方説明　‥‥5分
- 短歌の短冊を横に置かせる。
- テレビやタブレットで作成例を見せる。

③はがき新聞制作　‥‥‥‥30分
- 普通版の5ミリ（理想教育財団助成品）で書かせる。
- 全部のマスが埋められない生徒には、さらに挿絵を書いて埋めるなどの声かけをする。

④振り返り　‥‥‥‥‥‥‥10分
交流は、ミテミテ（理想教育財団助成品）の横に短歌作品（短冊）を貼って教室に掲示する。
1週間鑑賞の時間を設けて、1人5枚の付箋を渡して感想と名前を記入させる。

学びを広げるポイント

- 短歌の短冊を横において、鑑賞文を書くことで「短歌に親しむ」の学習とリンクする。作成時の思いをどれだけ読み取ってもらえるのか、どんな言葉が相手にわかりにくいのかなど、自分の言葉の使い方にも気づくだろう。

→次のページに続く

教材の対象 ▶ 中学2年生 国語〈先生向け〉
自分の短歌の鑑賞文を書いてみよう

私の短歌

2-9
○○の

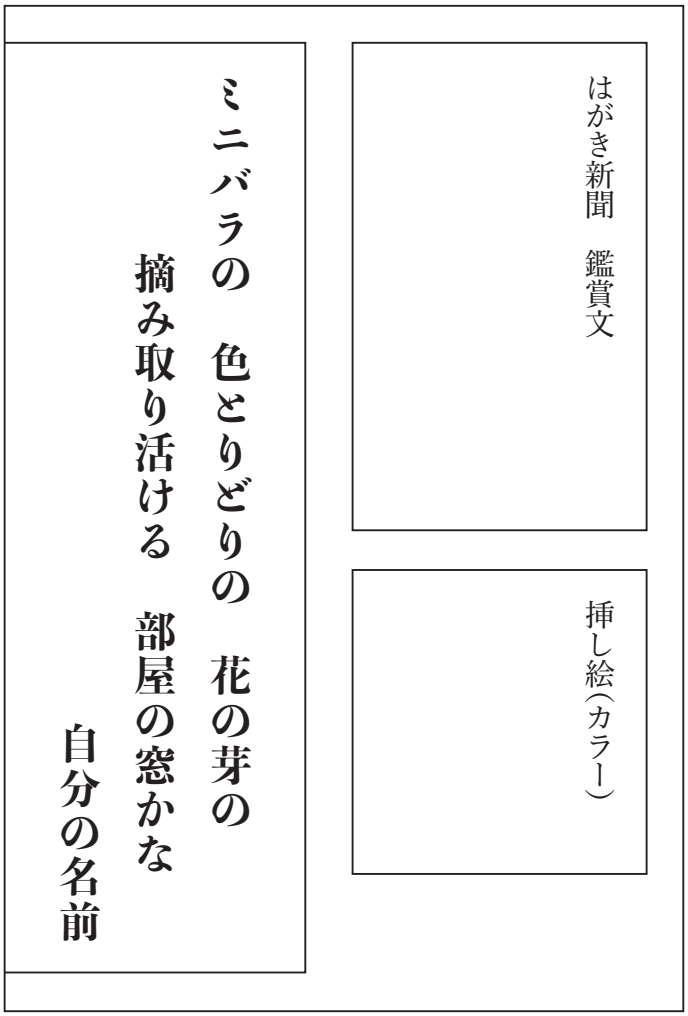
薔薇の花束

初夏、花屋の前に鮮やかに咲くたくさんのミニバラ。休日の買い物に疲れた作者は、その かわいさに心が癒されたからか、数鉢買ったのだ。早速どこに置くか悩んでいたが、今きれいに咲いている花を摘み小さな花瓶に生けたのだろう。小さな花瓶に小さなバラが何色も重なるように咲いている。そこに窓から差し込む陽の光があたっている様子である。

この短歌を何度も読むと、頭に浮かぶ風景は、部屋の窓だけだ。しかし、その窓は大きく陽の光をたくさん入ってくるのだろう。その前に小さな台があり、小さなバラが、赤、白、ピンク、黄色と、まるで花束のようにある。その姿がガラスに反射しているのではないか。他には何もないけれど、心がほっこりする。

5-T-1　公益財団法人 理想教育財団

レイアウトの例



はがき新聞　鑑賞文

挿し絵（カラー）

ミニバラの　色とりどりの　花の芽の
摘み取り活ける　部屋の窓かな
自分の名前

書画作品（書写の短歌　鑑賞文　挿し絵）
この場合のはがき新聞は、普通版の5ミリです

自分の短歌の鑑賞文を書いてみよう

「短歌に親しむ」「短歌を味わう」で短歌（定型詩）について学びました。書写の「行書」「行書に調和する仮名」の力を使い、自分の作った短歌を短冊に書いたら、その短歌の鑑賞文をはがき新聞に書いてみましょう。（短歌の短冊に関しては、このはがき新聞の作成の時間には含まれません）

準備するもの

国語の教科書、ノート、鉛筆（下書き）、消しゴム、ボールペン（黒）、定規、彩色用のペンや色鉛筆など

はがき新聞の作り方

教材：「短歌に親しむ（書く）」（光村図書）

1 レイアウトの例を参考に、ペンと定規で枠の線を引きましょう。

2 新聞のタイトル（題字）を右横上に太めに書きましょう。
（授業の中で決まっていなければ、自分で考えて付けましょう）

3 「発行者」（タイトルの下枠）に横書きで名前を書きましょう。

4 自分が短歌を作ったきっかけや、なぜこの言葉を使ったのか、自分自身のこだわりなどを振り返り、書きたいことをノートに簡単に書き出してみましょう。
（使いたい言葉や気持ちを書き出す。その言葉を表す効果的な言葉を書き出す）

5 ２段落構成で書く。第１段落は作品の背景や作者の思いなどを書く。第２段落は、作者の意図を読み取って考えたことや、読んだ（客観的に見た）感想を書く。

6 最初の三行は空けましょう。
（見出しの場所）

7 常体（「～だ」「である」）を使う。

8 編集後記（はがき新聞を作った感想）は50字です。

9 書けたら、読み返す。誤字脱字、表現のおかしいところはないか確認する。句読点の多い少ないも確認する。
（句点「。」は40字で１つくらい）

→次のページに続きます。

10 書き終えてから、見出しを考えましょう。

悪い例）
　暑い日なので…　　金魚がいる池

よい例）
　自分史上、極熱の日　　夏の庭
　　など

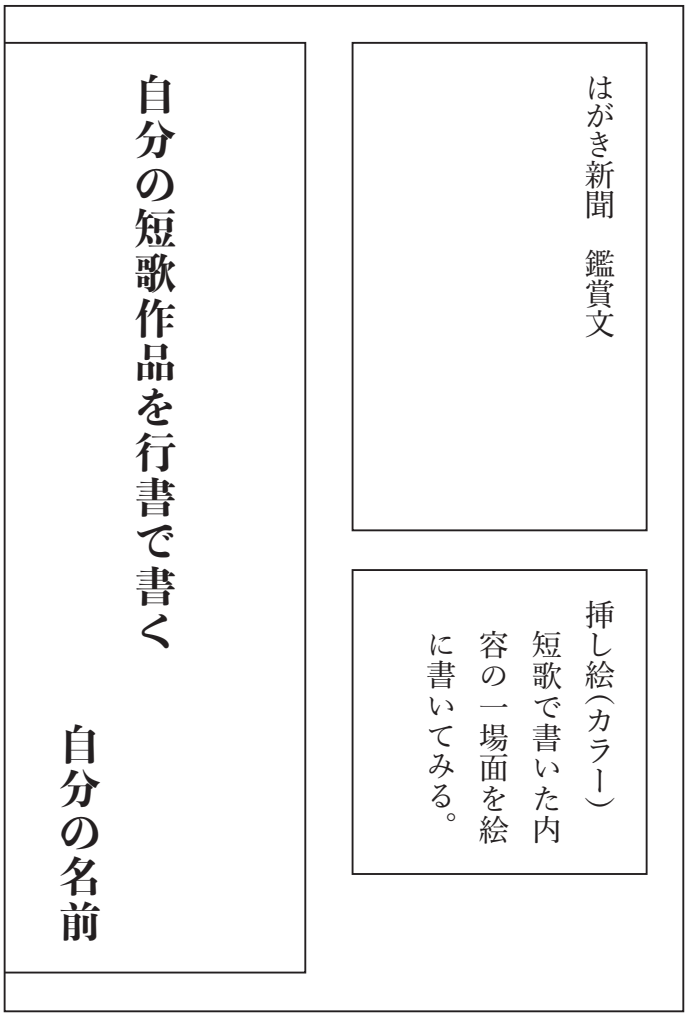
何を書いたかという説明ではなく、この新聞に何を書いているのかを９文字程度で表す。「･･･」は×です。

10（続き） 新聞の見出しは、「一番言いたいこと」「驚いたこと」「すごいこと」を書きます。見出しを見ただけで内容が分かるくらいの言葉を使います。「～です」「～だ」は使いません。全体を読んで、その内容を確認してから「見出し」を付けましょう。

11 時間があれば、枠の外側、題字、見出し、挿絵をカラーにしてみましょう。

私の短歌
2-9
○○の
薔薇の花束
初夏、花屋の前に鮮やかに咲くたくさんのミニバラ。休日の買い物に疲れた作者は、そのかわいさに心が癒されたからか、数鉢買ったのだ。早速どこに置くか悩んでいたが、今きれいに咲いている花を摘み小さな花瓶に生けたのだろう。小さな花瓶に小さなバラが何色も重なるように咲いている。そこに窓から差し込む陽の光があたっている様子である。
この短歌を何度も読むと、頭に浮かぶ風景は、部屋の窓だけだ。しかし、その窓は大きく陽の光をたくさん入ってくるのだろう。その前に小さな台があり、小さなバラが、赤、白、ピンク、黄色と、まるで花束のようである。その姿がガラスに反射しているのではないか。他には何もないけれど、心がほっこりする。
5-T-1
公益財団法人 理想教育財団

レイアウトの例



書画作品（書写の短歌　鑑賞文　挿し絵）
この場合のはがき新聞は、普通版の5ミリです